

高齢者インフルエンザ予防接種をお受けになる皆さまへ

※必ずお読みください。

インフルエンザとは

インフルエンザの流行は、通常初冬から春先にみられます。症状としては、突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などで、のどの痛み、咳、鼻水などもみられます。普通のかぜに比べて全身症状が強いのが特徴です。また、インフルエンザは空気中に拡散されたウイルスによって感染します。

インフルエンザ予防接種を受ける時期

予防接種を受けてからワクチンが十分な効果を維持する期間は2週間後から約5ヶ月とされています。毎年1回、インフルエンザが流行する前の10月から12月中旬までの間に接種を受けておくことが効果的です。

インフルエンザ予防接種の副反応

インフルエンザの注射の跡が、赤みを帯びたり、はれたり、痛んだりすることがありますが、通常2～3日のうちに治ります。またわずかながら熱がでたり、寒気がしたり、頭痛、全身のだるさなどがみられることがあります。通常2～3日のうちに治ります。非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などがあらわれる場合もあります。

接種対象者は

①65歳以上の方及び②60歳以上65歳未満の方で心臓やじん臓、呼吸器に重い病気のある方（障害者1級程度）などです。

ご本人が接種を希望される場合のみに予防接種を行います。義務ではありません。
ご本人の署名がない場合や、認知症状があって正確な意思の確認が難しい場合は、家族の方や同居者によってご本人の接種意思の有無を確認していただく必要があります。確認ができなかった場合には、予防接種法にもとづく接種はできません。また、予診票に同意する署名がない場合は接種することができません。

自己負担金（上記対象者）

- ・1,600円
- ・無料の方：生活保護世帯と中国残留邦人等支給受給者。

予防接種を受ける前に

インフルエンザの予防接種について、受ける必要があるか、また副反応などについてよく理解しましょう。気にかかることやわからないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師、市・町の担当者にお尋ね下さい。

予診票は、接種医への大切な情報ですので接種を受けるご本人が責任をもって正確に記入してください

予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱のある人
一般的に、接種場所で測定した体温が37.5度以上を超える人
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
急性の病気で薬を飲む必要のあるような人は、その後の病気の変化がわからなくなる可能性もあるので、その日は見合わせるのが原則です。
- ③ インフルエンザ予防接種に含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがあることが明らかな人
「アナフィラキシー」というのは通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る。吐き気、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息が苦しいなど血圧が下がっていく激しい全身反応です。
- ④ 前にインフルエンザの予防接種を受けた時、2日以内に発熱・発疹・じんましんなどアレルギーを思わす異常がみられた人
- ⑤ その他、医師が不適当な状況と判断した場合
上の①～③に入らなくても医師が接種不適当と判断した時は接種できません。

予防接種を受ける前に医師に相談が必要な人

- ① 心臓病・じん臓病・肝臓病や血液・その他慢性の病気で治療を受けている人
- ② 今までにけいれんを起こしたことがある人
- ③ 今までに中耳炎や肺炎などによくかかり、免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人
- ④ インフルエンザ予防接種の成分又は、鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のものに対して、アレルギーがあるといわれたことがある人

受けた後の注意事項

- ① 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。
- ② インフルエンザワクチンの副反応の多くは24時間以内にあらわれますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすことはやめましょう。
- ④ 接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

副反応が起こった場合

予防接種の後まれに副反応が起こることがあります。また、予防接種と同時に、ほかの病気がたまたま重なって現れることがありますので、その時は医師（医療機関）の診療をお受けになってください。わからないことがありましたら下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

須恵町役場 健康増進課

☎092-932-1151